

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、上下左右の余白は変更しないでください。
※各項目の枠の幅は変更可能ですが、必ず A3 用紙片面におさまるように作成してください。
※画像、写真、イラスト等は、用紙の中におさまるようにし、ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

【様式 2】

研修成果の活用レポート/NITS 大賞エントリーシート ※研修成果の活用レポートは、NITS 大賞エントリーシートと同様式です。NITS 大賞に応募される方は、推薦者への提出とは別に、<award@ml.nits.go.jp>宛て、メールにてお送りください。なお、メール送信後、3 日以上受領メールが届かない場合はご連絡ください。	※事務局記入欄 受理No. : A-45
【学校名・氏名】 岩手県盛岡市立巻堀中学校 校長 佐々木 秀一	【応募部門】カリキュラム ・マネジメント実践部門
【修了研修名】 平成 30 年度教職員等中央研修 第 1 回校長研修	
【活動名】 脱・定期テスト 当たり前を廃止して考える授業改善	
解決すべき課題：定期テストに頼らない観点別評価の適切な方法を探り、授業をデザインしなおす。 <活動前の状況> * 1 学期 1 回、2 学期 2 回、3 学期 1 回、5 教科のみの定期テストを実施。 * 教科担任が生徒のレベルに合わせたテストを自作し、また、見方・考え方を問う問題の割合が少ない。 * 教科担任が 1 名配置のため、3 学年分を作成し、全学年分を 1 名で採点している。 * 小テスト、単元テストを併用実施しているが、観点別評価及び評定において定期テストを重視。 * 定期テスト前に学習期間として部活動を停止しているが、生徒の多くは友達と遊ぶ時間になっている。	
目標・方針：教師の評価への意識改革から、生徒の学習意欲に対する意識改革を！ * 教科担任標準から 全国標準の評価へ * 見方・考え方の評価のための パフォーマンステスト導入 * 単元テスト等の積極的活用で スモールステップの設定 <教師（授業）の変容> * 自分本位の指導から脱却 * レポートや話し合い活動を導入 * 学習の定着のための きめ細かな指導 <生徒の変容> * 継続した学習の 取組姿勢 * 主体的に学ぶ 意識の高揚	
活動内容： 1 運営委員会及び職員会議等での提案と意見集約 ・定期テスト重視による観点別評価及び評定のあいまいさを指摘（見方・考え方に C が多い状況） ・自作テストの妥当性と各種学力調査等の結果との乖離の説明（学力調査の結果が思わしくない） ⇒「主体的・対話的で深い学び」につながる取組であることを共通認識した。 2 P T A 役員会において「定期テスト廃止」の対する意見交換 ・今、求められている「学力」と本校生徒の学習（指導）状況の説明 ⇒説明に対して理解いただき、職員集団の挑戦を激励された。 - ただし、保護者の中には反対もありうることを、丁寧な説明を必要とされることをアドバイスされた。 3 教育目標と関連付けて、「まなびフェスト」への位置づけ （1）教育目標「主体性と協調性をもって、よりよく生きようとする生徒」 学校の取組 ○家庭学習に連動した 授業の改善 ○将来・社会を意識した学習と 系統的キャリア教育の充実 目指す生徒像 夢をもち 自己を見つめる生徒 ○将来の夢や希望をもっている生徒の割合 ：83%（H30 73%） ○計画的に家庭学習に取り組む生徒の割合 ：56%（H30 46%） 家庭・地域の取組 ○学習や進路についての 会話の促進 ○家庭学習時間の確保 ノーマディアデーの取組	

（2）学校の取組「家庭学習と連動した授業の改善」の具体的な方策とは

- ・予習を主とした家庭学習を生かした授業の改善
- ・各単元等スモールステップの評価による学習内容の定着 ⇒「定期テストの廃止」
- ・各種学習調査結果・分析を保護者へ公表

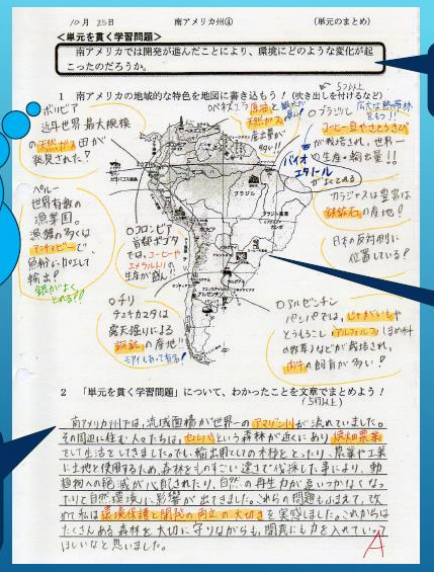
4 「まなびフェスト」を使って、P T A 総会で保護者に理解を求める。
⇒学力向上にどれだけ効果があるか疑問が残ること、適切な評価が行われるか不安であること、評定について丁寧な説明を望むこと、などの意見が保護者から出された。

5 副校長による示範授業をもとにした校内授業研究会の実施

<見方・考え方の評価場面を設定した授業>
追究の課程や結果を表現する段階で、
事象間の関連を互いに説明する言語活動を位置付ける

<授業者から授業の解説>
本日の授業における見方・考え方と
単元構想の仕方

<フリートーク>
各教科における観点別評価の在り方と
各教科担任が考える評価の方法



・モデルとなる授業提案で、他の教科にも大きな刺激を与えた。

6 期末面談を迎えるにあたって、評価の根拠資料の収集

- ・学級担任が、保護者に評定の根拠を説明できるように資料を準備
 - 教科における観点別評価の基本的な考え方・単元テストの補助簿・具体的な評価方法 等

7 学期末、評価及び授業の在り方について職員間で実践交流（職員の声を抜粋）

- ・定期テスト作成に注いでいたエネルギーを、パフォーマンステストの作成に充て、授業の見直しを行うことで、指導・評価の改善につながる実践ができた。
- ・定期テスト廃止（つまり、単元テストの実施⇒再テスト）は、学習内容を定着させるという意味でいい取組だ。つい生徒の実力に合わせるので、自作ではなく市販テストにしたこともよかった。上位の生徒も点数が取りづらくなっている、それがハイレベルな問題に取り組みたいという意欲につながる。
- ・学力向上を実現させるには、定期テストがあってもなくても、授業者の努力が必要なことや負担感に変わりは無いというのが結論（実感）だ。

活動の成果：評価のためのテストから、学習の定着を図るためのテスト（評価問題）へと変換

- ・4 月からの取組で、まだまだ始まったばかりの活動であり、目に見えるような教師や生徒の変容や学力向上の検証は確認できないが、定期テストのために行っていた単元テストや小テストが、生徒が学習内容を定着させるための評価問題へと変容した。
- ・あいまいだった観点別評価について、職員室でも話題に上がるようになり、実践交流からレポートやパフォーマンス的な評価方法も授業の中に取り入れられるようになった。
- ・継続的に学習に取り組む生徒が、少しずつではあるが増えたように思う。

アピールポイント：当たり前をやめたら、ほかにもスクラップできることはないか考えるようになった。

- ・「授業改善」と叫ばれ、何年もたっているが、一向に授業が劇的に変わったという実感が持てなかった。この取組により職員に意識の変容が見え、その意識の変容は授業に現れ、生徒を感化するものと考える。
- ・先進校事例の視察として、『学校の「当たり前」をやめた。生徒も教師も変わる！公立名門中学校長の改革』の著者である千代田区立麹町中学校 工藤勇一 校長を訪問した。「単元テストには再チャレンジの機会を与えることが大切」というアドバイス等をいただき、大きな刺激と勇気をもらった。今後も慣例やタブーを見直し、目的達成のため業務改善に取り組みたい。